

業務実績報告書

提出日 令和 2 年 1 月 22 日

1. 職名・氏名 准教授 今井 朋実

2. 学位 学位 修士、専門分野 社会福祉学、授与機関 カンザス大学
授与年月 平成 10 年 5 月

3. 教育活動

(1) 講義・演習・実験・実習

① 担当科目名 (単位数) 主たる配当年次等

ソーシャルワーク論Ⅲ (4 単位) 2 年次、ソーシャルワーク論Ⅳ (4 単位) 2 年次、ソーシャルワーク演習 1 (2 単位) 2 年次、ソーシャルワーク実習 (4 単位) 3 年次、ソーシャルワーク実習指導Ⅰ (1 単位) 2 年次、精神保健ソーシャルワーク実習指導Ⅰ (1 単位) 3 年次、ソーシャルワーク実習指導Ⅱ (1 単位) 3 年次、社会福祉演習 (2 単位) 3 年次、卒業研究 (4 単位) 4 年次、社会福祉援助特論 (個別) (2 単位) 大学院 1 年次

② 内容・ねらい (自由記述)

講義・演習への取り組みについては、着任後 3 年目であり、前学年時 (1 年時) に学生 (2 年生) がどの程度の学習効果を積み上げたかを過去の 2 年間の経験を参考に、工夫した。前期のソーシャルワーク論Ⅲでは学生が押さえておくべきケースワークの方法論、グループワークの歴史及び方法論について講義を展開した。後期のソーシャルワーク論Ⅳでは、ソーシャルワークの援助過程の実際に関して、社会資源を含めた制度運用の概観を紹介した後、サービス利用計画については社会資源利用、社会資源開発、アセスメント、プランニング、チームワーク、ネットワークとの関連について順次講義した。後半は地域包括支援に焦点をあてて、地域包括支援センターと障害者基幹相談支援事業所からゲストスピーカーを招き、それぞれの機関の業務の概要と社会福祉士の役割について講義して頂いた。また、保健医療分野として、東京都新宿区を中心とした HIV・AIDS と STI の地域の包括的支援システムについて、ソーシャルワーク実践に関する知識と技術の獲得とそれらを教育と研究にフィードバックするため、現場との繋がりを持っていることから、それらの経験を元に講義を行った。大学院科目の社会福祉援助特論 (個別) については、昨年度と同様に北米の修士課程で一般的に使用される D. H. Hepworth の ”Direct Social Work Practice” の訳本を使用し、章ごとのソーシャルワークの主要概念を毎回の講義でテーマとし、討論した。

③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫 (自由記述)

学生の興味及び学習意欲は年度により異なるため、30 名 (演習の学生は半分の 15 名×2 回の授業) を対象として、授業開始時期の学生の様子を観察することやリアクションペーパーにより学生の興味関心を知ることによって前年の授業案を修正して授業を展開した。前期のソーシャルワーク論Ⅲでは、ケースワークの方法論及びグループワークの歴史及び方法論について講義を展開した。講義科目ではあるが、2 時限続きの授業であるため、アクティブラーニングの手法を用いて、1 時限講義、2 時限視聴覚教材やグループディスカッションの手法を実施した。ソーシャルワーク論Ⅲ及びⅣは、昨年度と同様に 180 分という 2 時限続きの講義科目のため、教育効果や学生の集中力に課題があるものと考えられた。そこで、昨年度と同様に前期のソーシャルワーク論Ⅲ、後期のソーシャルワーク論Ⅳの双方について、本来は講義科目であるが 2 時限目に視聴覚教材や社会福祉の現場で活躍されているゲストスピーカーの現場業務の経験談 (ソーシャルワーク論Ⅳ)、及びグループディスカッションなどのアクティブラーニングの手法を取り入れた。このような形式にすることによって、懸念されていた教育効果や集中力の課題については、寧ろ学生には理解が深まるものとなり、180 分という時間を有効に使うことができた。昨年度、ソーシャルワーク養成校協会連盟のアクティブラーニングの研修会に参加させて頂く機会を得たため、これを今年度も活かすことができた。今年度もさらに着目されているアクティブラーニングの手法を取り入れて授業構成を工夫した。演習科目については後期科目であるソーシャルワーク演習 1 とソーシャルワーク論Ⅳと連動させて、ソーシャルワーク論Ⅳ

で扱った内容についてソーシャルワーク演習1でテーマに該当する事例を対応させて基本的なケアプランを立てて貰う演習を行った。学生にとって難解とも感じられる理論と応用(演習)を連動させることができたのではないかと考えられる。また、まだ2年生ではあるが、対応レベルの異なる事例をグループワークで行って貰い、事例を沢山積み重ねて考えて貰うことで、社会福祉実践の実際の考え方を涵養する機会を持って貰った。昨年にも増して学生が応用力に耐える能力を有していると実感したため、2年生においても、より高度な事例にあたって貰い、経験してもらうことも可能であることが分かったので、来年度に参考にしたいと考えている。

ソーシャルワーク実習の個別指導については、複数の学生のグループ成員が相互に学ぶ機会を提供した。実習日誌や実習報告書、または実習報告会のプレゼンテーション資料についてお互いに忌憚なくクリティカルシンキングをし合い、向上し、切磋琢磨できる環境を提供するように努めた。

ソーシャルワーク実習では、担当する教員2名の欠員が年度途中で生じたことに伴い、社会福祉施設・事業の種類が4種類(障害者支援施設・障害児施設・社会福祉協議会・福祉事務所)大別すると行政系と施設系の担当となった。私学のように大人数の教育体制として周知されている場合は問題ないが、本学は少人数教育を謳っているため、学生にとって不利益となることが想定された。グループダイナミクスで相互教育も狙えるのではと当初は考えたが、学生からグループを2つに分けて欲しいとの要望が聞かれたため、実質の1授業を2授業に分けて2時限続きで授業を実施し対応をした。個別指導を種別違いで行うことは多くの福祉系大学で実施されているが、実際は全く異なる実習プログラムで実習を行う学生(特に行政系と施設系の実習プログラムは異なっている)と一緒にして指導をすることは課題が多く、行政系と施設系は少なくとも別のグループにするほうが教育的効果はあると実感した。

また、退職予定の教員の代わりに急遽年度途中から精神保健ソーシャルワーク実習指導Iを担当することとなった。社会福祉士養成から精神保健福祉士養成を同時期に学生対応する必要性が生じたため、時間の工面の工夫がより必要となった。実習開始が来年度5月となることから、急遽12月から実習の準備のため精神ソーシャルワーク実習指導Iを年度途中ではあるが新たに担当することになった。

社会福祉演習(前期・3年生)において、石川県白山市にある地域住民と福祉施設が融合した天然温泉施設、スポーツクラブ、ビール醸造、食堂・花屋・クリニックの運営を障害者継続支援B型施設などとして地域共生型福祉施設を運営する寺院を母体とする社会福祉法人佛子園に学生7名を引率し、見学実習を実施した。また社会福祉演習(後期・3年生)では、東京都新宿区にある四谷キューブクリニックの糖尿病・肥満外来の元MSW(現東京福祉大学専任講師)による実務経験者1名のゲストスピーカーによる講義を取り入れて講義を展開した。同様の講義について社会福祉演習では東京都のLGBTの支援団体に所属する実務経験者によるゲストスピーチを計画していたが、日程が折り合わず断念した。社会福祉演習では、学生のソーシャルワーク実習後の振り返り学習として、越前町のがらがら山キャンプ場にて宿泊合宿を計画していたが、学生1名が入院加療となったことからほか6名の学生の希望を聞き合宿を中止した。社会福祉演習は3年生と4年生のゼミの連続性がないため、4年生の卒業研究と連動し、3年生と4年生と合同で3年生の実習前と実習後にゼミを行い、実習前の事前学習と就職活動及び国家試験の学習について3年生にイメージをもって貰う効果と、4年生が3年生にアドバイスをしてもらうことで、自身の現時点での学習に振り返りを行なって貰った。

(2)非常勤講師担当科目	
①担当科目名（単位数）	開講学校名
なし	
②内容・ねらい（自由記述）	
なし	
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫（自由記述）	
なし	
④本学における業務との関連性（自由記述）	
なし	
(3)その他の教育活動	
内容	
男子アイスホッケー部顧問（2019年～）	

4. 研究業績

(1) 研究業績の公表
①論文 (タイトル、共著者の有無(共著の場合は主たる担当箇所について)、掲載雑誌名(号数)、掲載(受理)年月日)
②著書 (タイトル、共著者の有無(共著の場合は主たる担当箇所または担当ページ)、出版年、出版社名)
③学会報告等 (タイトル、報告学会(大会)名(開催年月日)、共同報告者の有無(共同報告の場合は主たる担当箇所)) 第32回 日本エイズ学会「東京都南新宿検査・相談室における外国人およびSTI 相談への対応について」(共)大阪国際会議場, 2018年12月 第20回日本認知症ケア学会「若年性認知症のデイサービス・デイケアの効果的援助要素」 (単)仙台国際センター、2019年5月 第16回日本質的心理学会「若年性認知症を支えるデイサービス・デイケアに必要とされる援助の視点の変化の検証」(単)明治学院大学白金キャンパス、2019年9月 第33回日本エイズ学会「東京都南新宿検査・相談室におけるHIV検査相談の取り組みについて～3年間(2016年～2018年)における受検者へのカウンセリングの推移から今後の課題を検討する」(共)熊本城ホール、2019年11月
④その他の公表実績 「若年性認知症をもつ人とその家族のためのデイサービス・デイケアの援助モデルの研究」 (単著) 2016年 損保ジャパン興亜福祉財団 報告書
(2) 学会活動等
学会でのコメンテーター、司会活動 (担当報告名、担当学会(大会)名(開催年月日))
学会での役職など (学会名) 社会環境学会 理事
学会・分科会の開催運営 (担当学会(大会)名(開催年月日)、開催場所)
(3) 研究会活動等
①その他の研究活動参加 (参加研究会名、調査活動名(期間)) 1. 「若年性認知症をもつ人とその家族のためのデイサービス・デイケアの効果的な援助モデルの検討」(単), 2017年度認知症ケア・老年学研究合同夏季セミナー, 浜松医科大学, 2017年8月 2. 「若年性認知症の人とその家族を対象としたデイサービス・デイケアの援助モデルの検討」(単), TEM/TEA(複線径路等至性モデル・複線径路等至性アプローチ)研究会, 立命館大学 OIC, 2017年11月 3. 「若年性認知症の人とその家族を対象としたデイサービス・デイケアの援助モデルの検討」として、TEM/TEA(複線径路等至性モデル・複線径路等至性アプローチ)研究会にて研究会及び発表, 立命館大学 OIC, 東京大学、拓殖大学、一橋大学 2018年 4. TEM/TEA(複線径路等至性モデル・複線径路等至性アプローチ)研究会

立命館大学 OIC2019 年 9 月、アルカディア市ヶ谷私学会館 2019 年 12 月

②その活動による成果

上記 4 つの活動により、研究に対する貴重なフィードバックを参加者から頂いた。今後執筆する論文について参考になると考える。

(4) 外部資金・競争的資金獲得実績

(5) 特許出願

5. 地域・社会貢献

(1) 学外団体

①国・地方公共団体等の委員会・審議会（それぞれの名称、業務内容、担当期間）

②国・地方公共団体等の調査受託等（それぞれの名称、業務内容、活動期間）

東京都南新宿検査・相談室 相談室のカウンセリング業務（平成 15 年～現在に至る）

③（公益性の強い）NPO・NGO 法人への参加（それぞれの名称と活動内容、活動期間）

特定非営利活動法人福祉研究会における静岡県福祉サービス第三者評価事業への参加（平成 18 年～現在に至る）

④（兼業規程で業務と見なされる範囲内での）企業等での活動（企業名、活動内容、活動期間）

⑤大学間あるいは大学と他の公共性の強い団体との共催事業等

（事業名称及び主催・共催者名、活動内容、活動期間）

福井県相談支援従事者初任者研修を担当した。（2019 年 8 月）

⑥その他（名称、活動場所、活動期間）

ナースステーション（東京都中央区八重洲）において認知症を持つ人とのコミュニケーションの基本姿勢とグループホームにおける看護師の役割とケアスタッフとのチームとしての関わりについて、看護師を対象として第 3 回看護教育研修「認知症と福祉」を担当した。（2019 年 6 月）

社会環境学会理事として学会運営に携わり貢献した。（2017～2019 年度）

(2) 大学が主体となっている地域貢献活動等

①公開講座・オープンカレッジの開講（タイトル名、開催場所、開催日時）

公開講座：第 1 回 公開講座：一歩先の社会福祉学へ 2018 年度後期

若年性認知症への支援活動

【講師】今井朋実(本学教員) 三橋良博(公益社団法人 認知症の人と家族の会 神奈川県支部 世話人), 福井県立大学, 2018 年 11 月 3 日

②社会人・高校生向けの講座（タイトル名、開催場所、開催日時）

③その他（名称、活動場所、活動期間）

(3) その他（個人の資格で参加している社会活動等）

（活動内容、主たる活動場所、活動期間）

6. 大学の管理・運営

(1)役職（副学長、部局長、学科長） （職名、期間）
(2)委員会・チーム活動 （名称、期間） 大学院入試担当（平成 29～30 年） 大学院広報検討チーム（平成 30 年～） 大学院教務担当（令和元～） 大学院カリキュラム検討チーム（令和元～）
(3)学内行事への参加 （行事名、参加日時） 2018 年 8 月 5 日（日）オープンキャンパスでは社会福祉学科を担当し「認知症ってなに？」と題して模擬授業を行った。 2019 年 4 月 13 日（土）～14（日）新入生オリエンテーションではオリエンテーションの計画立案に携わり、学生の引率教員として参加した。
(4)その他、自発的活動など （活動名、活動内容、活動期間） 看護福祉学部 親睦会担当（平成 29 年～）